平成17年度　大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第３回利用対策部会
議事概要

◆日時　平成１８年３月16日（木）13：30～15：30
◆場所　奈良県新公会堂　会議室３
◆出席者

＜委員等＞

田垣内　進一	神習教大台ヶ原大教会　教長（ご欠席）
田村　義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会　会長
長嶋　俊介	鹿児島大学多島圏研究センター　教授
西田　正憲	奈良県立大学　教授
槇村　久子	京都女子大学　教授（ご欠席）
佐久間　大輔	大阪市立自然史博物館　学芸員
日比　伸子	橿原市昆虫館　学芸員

＜関係機関＞

国土交通省近畿運輸局奈良運輸支局企画輸送課	桐原　正明	企画輸送課長
林野庁近畿中国森林管理局三重森林管理署	平井　成典	流域管理調整官
奈良県企画部観光交流局観光課	中西　康博	主任調整員
奈良県農林部森林保全課	（ご欠席）	
三重県環境森林部自然環境室	（ご欠席）	
上北山村地域振興課	中崎　和徳	課長
川上村産業振興課	横谷　好則	主幹
大台町宮川総合支所産業室	（ご欠席）	
上北山村商工会	（ご欠席）	
近鉄日本鉄道（株）大阪輸送統括部営業課	速水　悦美	
奈良交通(株)自動車事業本部乗合バス事業部	池川　敏男	課長
奈良県タクシー協会	岩橋　宣禎	専務理事
吉野熊野観光開発(株)	小梶　昌司	総務課長

（以上敬称略）

＜事務局＞

近畿地方環境事務所	小沢　晴司	統括自然保護企画官
	柴田　泰邦	国立公園・保全整備課長
	小林　浩二	国立公園・保全整備課課長補佐
吉野自然保護官事務所	熊代　哲	自然保護官
(株)スペースビジョン研究所	宮前　洋一	代表取締役

◈議事

（1）平成１７年度「新しい利用のあり方推進」実施報告

（2）その他

◈議事概要

○資料に基づき「平成１７年度「新しい利用のあり方推進」実施報告」等について事務局より説明。

○委員及び関係機関からの主な意見等

（1）マイカー規制および公共交通利用促進の検討について

・マイカー規制の実施は、自然再生推進計画の３本柱のひとつとして非常に重要な課題であり、次年度は、マイカー規制に向けて着実な推進を図るべき。

・マイカー規制の実施に向けて、利用者の意識、行動についてより詳細な調査を行うこと。

・利用者の行動様式を踏まえ、バス、タクシー等の公共交通のネットワークによるきめ細かな交通サービスの提供について検討すること。

・地域経済の厳しい現状を踏まえ、利用の質の向上や自然再生を、地域振興につなげていくべき。

（2）利用調整地区の導入検討について

・利用調整地区については、地元との緊密な議論による、早急な合意形成が必要である。

・地元側からも、利用調整地区の方向性について概ね理解が得られており、この気運を逃さず、導入に向けた議論を進めていく必要がある。

・利用人数等の細目については先進事例等を参考に決定し、その後の継続的なモニタリングによって修正していくこと。

・登山者から団体客までの多様な利用や、慣習的な利用のあり方等を踏まえ、利用調整の実施におけるきめ細かな運用が望まれる。

（3）総合的な利用メニューの充実検討について

・ガイド研修会は、まだまだ不十分な点、改善すべき点が多い。ガイドに対しては利用者の安全確保を含めた高度な技能・知識が要求されることを考慮し、その養成のあり方を検討すべき。また、ガイドの認定に関しては、条例を制定し、公認ガイド制度をつくることを視野に入れた検討が必要である。

・登山道の現況調査に関しては、歩道の位置づけに関する資料の精査が必要である。

・滝見尾根～千石尾根ルートは嵓(岸壁)と滝を眺めることができる屈指のルートである。危険箇所があるため現在閉鎖されているが、必要な箇所に梯子など整備すれば安全に登山できる。西大台において質の高い利用を目指すのであれば、この機会にガイド付きを条件としてルートを復活させてはどうか。

・キャンプ指定地は、キャンプの教育的意義が静寂な原生的自然と肌で触れ合うところにあること等を踏まえて選定するべきである。「サイト想定数」は当面最大５張りで充分と考える。キャンプ利用を求める声が実態としてあるので、今後継続して検討すべき。

（4）18年度「新しい利用のあり方」実施計画について

・今年度は、マイカー規制社会実験の実施に向けて積極的に検討を進めていくこと。

・山上に上がってからの利用マナーの向上だけでなく、普及啓発等により、山に上がる以前から利用者の意識向上を図っていく必要がある。

・マイカー規制、利用調整地区の導入、総合的な利用メニューの３本柱を一体的に捉え、モデル業的に進めていくべき。

［文責：近畿地方環境事務所］